

## 【参考】 取組の概要

テーマ	公民館等名	事業名	取組の概要	主な活動
若者の地域参画	1-1 大田市 志学まちづくりセンター  (実践発表①)	「まちづくりサークル」で地域の魅力アップ大作戦!	これまで進めてきた「町を元気にする」取組に加え、平成30年4月9日の地震による大きな被害を受け、新たな地域の課題を把握し、地域について考え、楽しく学ぶ「学びの場」を設けることで、地域の未来を真剣に考え、語り、行動する若者を育て、楽しく元気な地域づくりに挑戦する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の学ぶ場所づくり</li> <li>・現地研修</li> <li>・ふうりんおんせん</li> <li>・雪あかり</li> <li>・情報誌の編集、発行</li> </ul>
	1-2 松江市 宍道公民館  (実践発表①)	PAL PARK(パルパーク)を利用した事業～世代を超えた仲間との交流の輪～	これからの地域の基盤となる若者世代と交流しながら、若者が活躍できる機会と場所を増やし、若者視点のアイデア企画とエネルギーの引き出しに挑戦。事業を通して若いスタッフ育成で地域力の醸成を図る。地域性に関係なく若いスタッフを集める仕掛けを実行。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松江水燈路 IN 宍道 春夜祭り と夏夜祭り</li> <li>・通学合宿</li> <li>・サマーキャンプトライアル</li> <li>・文化祭模擬店</li> <li>・オール宍道の交流会開催</li> </ul>
	1-3 浜田市 井野公民館  (実践発表①)	若手(若者)による石州和紙の郷再発見	公民館が主体となり、若手グループが持つ楽しくつながろうとする場づくりの力を活かしながら、楮栽培や和紙文化を地域全体で再認識する活動に取り組む。これにより地域住民に対して石州和紙文化を守る機運を醸成するとともに、若手が楽しく集いながら地域課題へ取り組む意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和紙の郷再発見会議</li> <li>・石州和紙を知る(研修, ワークショップ)</li> <li>・石見神楽体験</li> <li>・紙漉き体験</li> </ul>
	1-4 邑南町 公民館連絡協議会  (実践発表②)	集う! 学ぶ! 繋がる! 志を持った人材の育成	町内全公民館と連携して各地で活動している若者団体とそれぞれが取り組む活動について調査・把握するとともに、団体同士の連携・繋がりを広め、町内の若者全体の結束力を高めるための新しい公民館のあり方・住民との繋がり方を考える事業を行う。この事業を実施することで、自分たちの地域を自分たちで創るという若者の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若者団体対象講演会</li> <li>・若者団体活動内容の調査</li> <li>・活動紹介リーフレット作成</li> </ul>
	1-5 奥出雲町 布勢公民館  (実践発表②)	若者会議 初仕事  子どもたちにかかわろう! 自分たちの魅力と地域の魅力を伝えるために	地域活動のマンネリ化や高齢化で、地域の活力が低下する中、地域を元気にしたいと、若者を中心にしたチーム「ふせの風」が生まれた。メンバーも参加者も活動を楽しむことを大切にし、子どもたちが将来ここに帰りたいという思いが持てるよう、自分たちや地域の魅力づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふせの風の発足・定期ミーティング</li> <li>・水鉄砲で遊ぼう会</li> <li>・案山子づくり</li> <li>・文化祭への参加</li> <li>・冬の活動</li> </ul>
	1-6 雲南市 大東交流センター  (実践発表②)	伝統文化継承と世代間交流による次世代育成事業～444年の伝統「大東七夕祭り」本気で祭りを楽しむと地域の未来を担う人材も育つ事業～	平成30年には444回を迎えた大東七夕まつりは、少子高齢化などの影響を受けて、担い手不足や継続への負担感がある。しかしながら伝統あるこの祭りは大東の地域にとって大切な事業であることを、こども、若者、大人の連携により大東ならではの魅力化計画を作り出し、地域の誇りと愛着を感じながら伝統行事を守りながら新たな活力を生み出す人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大東高校地域文化部の生徒の皆さんにより子ども行列の女子小学生75名分のオリジナル七夕イヤリングを作成し行列を彩った。</li> <li>②外部講師としてマツリズム大原学氏を招き、高校生、若者グループとのワークショップを開催して七夕祭りや地域の魅力についての学習会を行った。</li> <li>③若者グループによるSNSを活用した七夕まつりのPR活動を行ない外部参加を呼び掛けた。</li> </ul>

テーマ	公民館等名	事業名	取組の概要	主な活動
若者の地域参画	1-7 津和野町 津和野中央公民館  (実践発表③)	つわのKinds circle ～新たな風をまきおこせ～	昨年度の取り組みから生まれた、中高生の地域活動グループ「つわの kinds circle」が今年度始動！自分たちの想いを形にし、地域住民との関わりを広げることで自分たちは勿論、地域住民も刺激を受け、地域活性化へと繋がり、まちづくりに対する関心を高める。また、地域住民の自主的、主体的な参画が活発になることを目指す。	・あこがれ・つながれプロジェクト（他世代交流ひまわり畑づくり・まるごとマルシェで出店 など） ・Tシャツデザイン総選挙 ・他団体への視察交流
	1-8 安来市 島田交流センター  (実践発表③)	みんなでワクワク地引網	地域事業への参加人数の減少と地域団体構成員の高齢化が深刻になってきた。親子で地引網を引くイベントを通して、子育て世代の親と地域団体とをつなげ、今後の事業に参画してもらえるような関係性を築くことを目的に計画した。将来的には地域団体の構成員になってもらうというねらいがある。	・地域団体メンバーを事業スタッフに参入 ・団体メンバー及び参加者の自発的な協力体制の構築 ・事業終了後もスタッフとしてつながりの継続
	1-9 浜田市 白砂公民館  (実践発表③)	「魅力ある白砂っ子に育ってほしい」子供への願いでつながる地域を目指して	白砂地域は、まちづくり委員会が組織され地域課題解決に向けた活動が活発である。しかし委員は主に60歳以上で構成されており、地域を持続するためにも若者の地域参画が必要である。『魅力ある白砂っ子に育つために』をテーマに若者(保護者世代)が主体的に活動を行うことで地域の次世代の担い手作りを行う。	・親子キャンプ ・親子ヨガ ・魅力ある白砂っ子を語る会
生活課題の解決	2-1 邑南町 井原公民館  (実践発表①)	人権尊重の地域づくり ～思いやりの心が通じる公民館～	社会の多様化の影響等により、当事者意識の低下が顕著になっている。地域社会の希薄化や少子高齢化に伴い、歴史や伝統文化継承など地域活動の衰退に不安を感じている。人権とは人づくり。人権意識を高め、思いやりの心を育むことによって、住民主体の地域活動を動かす基盤を形成する。	・ハーモニカ演奏の鑑賞会 ・公民館活動推進協議会委員の研修会 ・アイヌの歴史と文化を学ぼう ・人権学習講演会
	2-2 雲南市 一宮交流センター  (実践発表②)	住みやすい一宮！住んでみたい一宮！！をめざして～「いちにこカフェ」を拠点とした生きがいづくりと住民主体の活気ある地域づくり～	「一宮地区配食サービス事業」「移動販売車運行の拡大」を行い、見守りや声掛けを行いつつ、サロンや交流センターへの集いを促していく。 高齢者だけでなく、多世代が一同に集まるよう交流センターを『いちにこカフェ』として若い世代も集うようにしていく。 カフェには、隣接する三刀屋こども園の園児や地域の高齢者の作品等を展示し、保護者も地域住民も集まりやすい環境にしていく。	・一宮地区独自の配食サービス事業の実施 ・移動販売車運行の拡大 ・「いちにこカフェ」立上げ検討委員会の設置及び開催 ・先進地視察(4か所) ・『いちにこカフェ』施行オープン
	2-3 津和野町 木部公民館  (実践発表②)	木部大好き！魅力化計画	木部の地域にある様々な地域課題。その課題に小学生を中心に、子どもたちの視点で地域を見つめ直し、一緒に活動することで大人たちへ当事者意識を芽生えさせる。そして新たに地域の魅力を地区外へ発信し、地域の魅力を共有・再認識を図る。	・配信に向けたインタビューや、写真の撮り方講座 ・空き家対策の一つとして、子どもと交流する健康サロンの実施

テーマ	公民館等名	事業名	取組の概要	主な活動	
生活課題の解決	2-4 雲南市 鍋山交流センター (実践発表③)	集って!つぶやきを拾って!ささえあう!「安らぎ広場」を活用した人づくり	鍋山地区では高齢者の方を中心に地域住民による見守りや生活支援の活動が実施されており、地域の安心感に貢献してきたが、同時に担い手不足などの課題も出てきた。そこで、元 JA 店舗「安らぎ広場」の拠点整備を行い、「ちょんてご」の活動を中心に地域住民同士でささえあいの意識を育てることを通して地域ぐるみで課題解決に取り組んでいく。	①安らぎ広場での集いの場の運営 ②水道検針や各種見守り事業と連携した日常的な見守り活動・健康チェック体制の担い手獲得 ③他地区先進事例視察	
	防災を通じた絆づくり	3-1 雲南市 久野交流センター (実践発表①)	久野地区防災対策事業 ~その時、どう行動する! 安心を紡ぐ一歩~	参加者自らが地域防災のリーダーとしての意識を持ち、自ら活動を先導し、動くことが可能となることを目的として実行につながる避難訓練と避難所開設の研修を実施。また、子供を対象とした災害時に役立つ体験活動を行い、保護者世代の参加も促すことで、活動を通して繋がった地域住民同士の絆づくりや支えあいにつながる取組みを実施。	①避難訓練の開催 ②避難所運営役員研修の開催 ③子供向けサバイバル技術の習得
		3-2 江津市 郷田地域コミュニティ 交流センター (実践発表①)	地域の絆 ~安心・安全なまちづくり~(自主防災組織立上げ準備会)	郷田地域では、大きく分けて4つの地区が存在するが自主防災組織は無い。高齢化が進み組織の立ち上げが困難な地区においては、消防団など一部の住民のみが関わっている状況や、当事者意識が低い状況にある。そこで、郷田地域全体で防災意識を高める活動を行い、防災をきっかけに住民の絆を強めていく。	・防災講演会の開催 ・防災についてのワークショップなど
		3-3 大田市 鳥井まちづくりセンター (実践発表②)	防災で築く鳥井の「絆」事業	『地域リーダーの意識の醸成』と『地域住民を巻き込んだ防災に対する意識の醸成』を2本の柱とし、防災を通して、地域を担う人づくりや、地域の団体間の連携の強化、様々な地域活動に積極的に関わろうとする地域コミュニティの構築を目指していく。	・参加型の防災学習 ・関係機関と連携した児童、生徒との炊き出し訓練 ・HUG 訓練 ・専門機関での体験型学習
		3-4 出雲市 阿宮コミュニティセンター (実践発表②)	「地域住民で作る防災の輪」 ~「顔が見える、声が聞こえる」地域へ~	阿宮地区では、自主防災組織を中心に安全・安心な地域づくりの取組を進めてきた。一方で、年々少子高齢化が進み、地域力としての「共助」が希薄になりつつある中、独自の防災マップの作成を始め、要支援者と支援者の協力体制を構築するための自治会での研修、訓練の実施などを行うことにより、地域のリーダーを育成し、住民の「絆」を強め、コミュニティの活性化に繋げていく。	・防災先進地視察研修 ・防災マップづくり ・住民参加型避難訓練 ・危険個所の確認 ・講演会の実施
3-5 奥出雲町 亀嵩公民館 (実践発表③)	「自主防災組織の立ち上げに向けて」 地域防災から人づくり	少子高齢化・人口減少の加速とともに地域住民同士のつながりの希薄化が進んでいる。今この状態で災害が発生した場合、対処について不安がある。地域内の自主防災体制を確立し、自助、共助を目指すとともに、地域住民のつながり、支えていく人づくり地域づくりを目指し、継続的な事業として取組む。	・小学生、女性グループの防災食実演 ・防災研修会 ・防災講演会 ・防災避難訓練 ・先進地視察		

テーマ	公民館等名	事業名	取組の概要	主な活動
防災を通じた絆づくり	3-6 益田市 匹見上公民館 (実践発表③)	語ろう! つくろう! 支え合いの“ふるさと匹見” ～防災の視点から～	住んでいる地域がこれから先も「住み続けたい」「住み続けられる」地域であるためには、今、どんな行動が必要なのか。対話の中から住民自らが考え、行動できるよう支援を行う。昨年に引き続き防災の視点から世代を超えた絆づくりに取組むことで、地域ごとに核となるリーダー育成の支援をしていく。	・定例会(月1回) ・小学生と地域の大人と一緒に危険個所の確認(危険マップ作り) ・防災講演会の開催 ・被災時にも活用できる保存食や伝統食教室の開催 ・被災復興地の視察
子育て支援・家庭教育支援	4-1 邑南町 高原公民館 (実践発表③)	みんなで子育てかかわろう	子育てが終わった地域の方が、子どもとの体験活動を通じて、地域で育つ子どもたちの成長に関心を持ち、子育て世代と地域の大人とのつながりを作り、相互理解を深める。子育て世代が地域の先輩に対して感謝の心を持ち、地域活動に参画する動きにもつなげる。	・星が丘ふれあいコンサート ・しめ縄作り ・紙すき
その他の課題	5-1 出雲市 高松コミュニティセンター (実践発表①)	三世代交流による「おらおら」「ふたふた」高松ひとづくり推進事業	いつまでも住み良い地域であり続けるために、「おらおら」、「ふたふた」とした出雲らしいつながりを軸に据え、様々な事業において「人づくり・組織づくり・体制づくり」に取り組む。各事業の主体を実行委員会とすることで、「やりたいことがかたちになる」楽しさや達成感を得てもらい、他事業への参画につなげる。	・新しいリーダーによる夏祭り開催 ・地域高齢者と児童の米づくり ・高松マップづくり ・マップを使った歴史探訪初開催
	5-2 邑南町 中野公民館 (実践発表①)	掘り起こそう地域の宝(ひと・もの・こと)	様々な体験活動を行う「地域学校」に関わる人が固定化している。子どもたちにとっての地域の教科書である地域住民から新たな指導者・協力者の掘り起こしを行い、地域学校の体験活動の充実を図る。	・地域のお宝めぐり ・地域のお宝つなぎ ・郷土の歴史マンガ発表会 ・体験活動
	5-3 益田市 美濃公民館 (実践発表①)	山城ルネサンス「中世・桜田城物語」	3年前小学校が閉校、地域の人たちに喪失感、不安感が生まれた。そこで子どもを含め世代を超えた地域住民が一体となって、美濃の豊かで深い歴史資源を活かし、中心地に位置する中世の山城「桜田城」を切り口として、地元学を学ぶ新たな拠点づくりの創出に向け取り組んでいる。みんなでアイデアを出し合い、整備を進めることで生まれた連帯感や一体感、故郷をキーワードに想いを共有しつつ、今後の地域づくりの自信と原動力につなげていく。	各種 ワークショップ開催 ・美濃小思い出再生プロジェクト校舎探検隊/プロに聞くDIYアイデア ・気分は戦国武将～体験登山 ・みんなでつくる遊歩道 ・史跡に看板を設置
	5-4 浜田市 石見公民館 (実践発表①)	社会貢献推進事業～本を読んで元気になる講座～	公民館エリアのシニア世代は、公民館を利用した生涯学習を熱心に続けている。しかしその学習を地域で活かしている方が少ない。ここでもう一步、ボランティア活動すなわち社会貢献をする事でさらに元気で生き生きと過ごす高齢者を増やしたい。そのために、エリア内にある図書館と繋がり、読み聞かせボランティアの養成講座に取り組み学校や地域活動に参加しようとする人を育てる。	・地域デビュー応援講座 ・本を読んで元気になる講座 ・読み聞かせ体験

テーマ	公民館等名	事業名	取組の概要	主な活動
その他の課題	5-5 吉賀町 蔵木公民館  (実践発表②)	いけいけ、ドンドン!! ～蔵木の未来に向かって突っ走れ～	地域住民の高齢化による地域行事の減少や、次世代の担い手の育成が課題である。昨年度、地域の住民や関係者によって蔵木音頭を作成した。その歌を活用した地域全体の盆踊り大会の開催や地域行事を背景にした映像制作を通して、新たなつながりの創出や地域行事に主体的に参画する意識の醸成を図る。	・サクラマスプロジェクト地域会議(月1回程度開催) ・蔵木地区盆踊り大会 ・蔵木音頭の映像制作
	5-6 浜田市 美又公民館  (実践発表②)	妖怪で地域をつなげ 盛り上げよう! ～地域に伝わる伝説を取り入れた地域づくり～	地域資源である「伝説」や「妖怪」をキーワードに、今まで地域活動に関心を示さなかった人に関心をもたせることや、主体的に活動する人づくりを進める。この事業をとおして、高齢者達が生きがいをもつきっかけとなり、ふるさと教育を通じて子どもと地域を繋げることで、保護者世代と地域をつなげていきたいと考えている。	・ふるさと地域探検隊 ・ふるさとのことを知ろう学習会 ・おさんぽ歩数マップ作り ・石見の妖怪カルタ作り ・干し大根プロジェクト
	5-7 西ノ島町 中央公民館  (実践発表②)	図書館を核とした人づくり 事業	これまで中央公民館を拠点に人づくりに取り組んできたが、新たな動きが見いだせない状況であった。そこで、新しく開館するコミュニティ図書館を拠点に、図書館をテーマにした集まり(縁側カフェ)を定期的で開催する。集まった方々には、図書館の在り方を考えてもらったり、図書館イベントの企画・運営に携ったりしてもらい、主体性を持った人づくりのきっかけとする。	・島アトラス作成 ・オープニングイベントの企画・運営 ・環境整備活動 ・図書館への持込イベント
	5-8 隠岐の島町 都万公民館  (実践発表③)	廃校と学校キャンプ を活用した地域活性化プロジェクト ～生まれよかった 住んでよかった訪れてよかった都万 隠岐の島町をめざして～	閉校した旧那久小学校で小中学生が夏季キャンプ活動を行ない、児童生徒が普段体験できない海洋体験を地域の方々を巻き込み活動する。この機運を生かし、住民自らが様々な他者と協働しながら地域課題の解決に粘り強く取り組んでいく人づくりを行なう。	・地域の方を巻き込んだ都万小学校キャンプの実施 ・地域の方を巻き込んだ都万中学校キャンプの実施 ・都万西部地区元気アップ会議(仮称)の実施
	5-9 雲南市 阿用交流センター  (実践発表③)	めざそう!健康長寿日本一の阿用 うなんん 幸雲体操(いきいき百歳体操)	「阿用いきいき健康サロン」として毎週阿用交流センターで体操を行うところからスタートし、このサロンをモデルにして参加者の体力・運動能力の変化を検証。これを継続しながら、自治会での誰でも参加できる体操の取組みを拡大する。専門職(コミケアや包括支援C)とも連携し参加者への効果を検証しアピールすることで地区住民の健康意識の向上や(特に男性)の参加を促し、コミュニケーション不足の改善にも繋がる取組みとしていく。	①うなんん幸雲体操(いきいき百歳体操)を交流センターで実施 ②地域内の自治会への取組み拡大を図る ③専門職との連携、地区内の地域運動指導員による指導による取組みの定着 ④体力・運動能力測定による効果の見える化、意欲向上
5-10 大田市 富山まちづくりセンター  (実践発表③)	「田舎をもっと楽しもう!」 プロジェクト in とみやま	少子高齢化、人口減少が進む地域で、若者定住という課題解決のために、「田舎だから楽しい! 田舎に帰ってきたい!」と思えるまちづくりを進めるため、地域資源や魅力を町内外の方に広く周知し、ふるさとの良さを再認識するとともに、こうしたまちづくりに取り組む大人の姿を子どもたちに見せることで、地域を担う次世代の育ちを支える取組みを展開する。	・やまめつかみどり、放流 ・清流清掃活動 ・石窯を使った食育活動 ・とみやまカフェ	